

フランス語圏アフリカ人のアイデンティティ —他地域フランス語圏に住むアフリカ人のアイデンティティとの関連において—

平成25年度入学
派遣先国：セネガル
御手洗 なつ実

キーワード：アイデンティティ、ネグリチュード、セネガル、フランス、アンティル、ルーツ

1. 対象とする問題の概要

1930年代に、フランスに留学していたセネガル人のサンゴールや、マルティニーク人のセゼールらによるネグリチュード（黒人主義）運動がおこった。彼らは“白人になること”を求められる同化政策に反対し、黒人独自の文化や伝統を高く評価し、黒人の復権を訴えた。その後、セネガルは独立を果たし、アンティル諸島マルティニークとグアドループは独立運動を経験しているものの、フランスの海外県（植民地として留まること）となり、フランスはこれらの地域から現在も多くの移民・移住者を受け入れている。

報告者は2013年度はグアドループで調査を行った。その結果、ほとんどの黒人グアドループ人に、アフリカ起源の意識がなく、多くの人はアフリカに関心を持っていないこと、またグアドループ人には主に自分のことをフランス人だと認識している人と、グアドループ人もしくはアンティル人だと認識している人がいるが、それをあらわす対象となる人種カテゴリによって大きく変化することが分かった。



ゴレ島奴隷廃止記念像

2. 研究目的

今回はセネガルでフィールドワークを行い、グアドループで行ったものと同様のアンケート調査とインタビュー調査を行った。アンケート調査は首都ダカールで18歳以上のセネガル人男性40人、女性40人を対象とし、言語やアイデンティティ、フランスや他地域の黒人について質問した。インタビュー調査では、宗教関係の就業者や政治家、大学教員、音楽アーティストなどを対象とした。そして、この調査の結果と、前回の結果を比較し、その傾向を調べた。

またこれまでの調査結果をもとに博士予備論文を執筆し、同時に来年フランスで行う調査へ向けて、具体的な調査方法や内容を策定した。

3. フィールドワークから得られた知見について

3.1. アンケート調査

言語について問う質問で、両親からフランス語で育てられ、自身の民族語もしくはセネガルの共通語ウォロフ語を話すことに抵抗があると回答した若者が数名いた。これはグアドループの共通語クレオール語でも同様の結果が見られている。またフランス語を公用語としていることに対し、賛成している人は7割を超え、グアドループよりも多い。フランスの国やフランス人について問う質問に関してもほぼ同様の結果で、フランスに対し、それぞれ約3割の人が人種差別などを理由に悪印象を持っていると回答したが、フランスの良い点を問う質問では、グアドループでは主に6点が挙げられたのに対し、セネガルでは16点挙げられ、またその回答もより具体的であった。



パフォーマー兼インフォーマント

3.2. インタビュー調査

40代以上の対象者はサンゴールやセゼールの話をもとに意見を述べる人が多かった。グアドループの調査結果を示すと、「彼ら（アンティル人）はもう黒人ではないんだな」と予想外の結果に驚き、嘆く様子も見られた。しかし、若者の中には、黒人アンティル人が自ら人種差別をネタに冗談を言うことや白人らしく振舞うことを非難する人が多くいる一方で、インターネットの普及によって、数十年前より他地域の黒人の情報が手に入りやすいことから、今後、黒人としてのアイデンティティは統一されていくと考えている人もいた。

グアドループでの調査結果に対し、アンティル人はフランスの教育システムが要因でアフリカの知識がなく、メディアの影響をうけて、アフリカ人に対して悪印象を持っている、または無関心なのではないか、と考えるセネガル人が多くいたが、実際には、ほとんどのグアドループ人が悪印象の理由として、一部のアフリカ人のマナーの悪さ、公共の場での自己中心的な言動などを挙げている。

4. 今後の展開・反省点

渡航中、知人からは「あなたはもうすっかりセネガル人になったね。」と言われ続け、全く知らない人たちからはトゥバーブ（白人の意）と呼ばれつづけたことから、公私どちらの時間もアイデンティティについて考えており、私自身のアイデンティティを見失いそうになった。しかし、その代わりに外国育ちのセネガル人や、外国で暮らすセネガル人で、バカンスとして帰国していた人たちの考えをより理解することができたように思う。

今回の調査では、協力的なセネガル人に支えられ、渡航中の調査課題をスムーズに遂行することができた。これからグアドループの調査結果とセネガルの調査結果を、世代や学歴別に分析し、フランスでのインタビュー調査も含め、それらをもとに予備論執筆に励みたい。